

マレーシアの高校生とのオンライン交流

校長室だより No.5

8月7日（土）に本校農業クラブの生徒とマレーシアのサバ州の高校生の第1回目の交流活動がオンラインで行われました。この企画は、川西町国際交流協会のご協力で行ったもので、今回は試運転的な意図での開催でしたが、お互いの学校の紹介やそれぞれの学校の特色ある学校生活への質問などで盛り上がりました。

マレーシアの言語はマレー語と英語ですから必然的にインターナショナルな環境が出来上がっています。今回参加したマレーシアの高校生は明確に自己の考えを表現するすべを心得ており、非常に対話慣れしている印象を受けました。

私は校長として、このような校外の人と交流する活動を強力に推進したいと考えています。地域・教育魅力化プラットフォーム会長の水谷智之さんは、「同質化した集団の中にいると自分や地域に備わる価値に気づきにくい」といいます。現代の日本の中高生が抱える人間関係の問題や自己肯定感の低さも、多様な価値観を受け入れられない視野の狭さから生まれるといわれています。私はこれまでの経験から、国内外を問わず、継続的にこのような活動を行い、置農生全員が何らかの形で参加できるような体制を整えれば、様々な価値観を受け入れる態度やコミュニケーション能力がかなり改善されると確信しています。国外の場合は言語の問題もありますが、それはどうにでもなる。まずは「態度の育成」です。